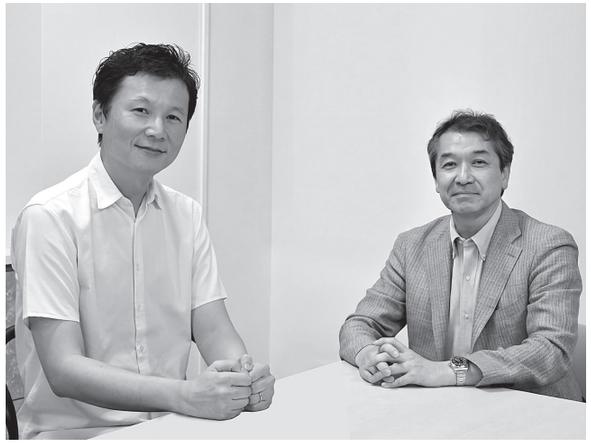
AI時代の看護考える



少子高齢化の進展に伴い、ケアの需要増と担い手不足が課題となっている。人手不足を補う手段として期待される人工知能（AI）は、人の心に寄り添う看護にどこまで貢献できるのか？―。12月4日に開催される「CHANGEシンポジウム」を前に、AIに詳しい川原教授とCHANGEプロジェクトリーダーの一木教授に聞いた。

出席者

東京大学大学院工学系研究科・電気系工学専攻／内閣府人工知能戦略専門調査会メンバー
川原圭博 教授（写真左）

東京大学大学院工学系研究科・マテリアル工学専攻／CHANGEプロジェクトリーダー
一木隆範 教授（写真右）

安心つなぐ人と技術の協働

―AIは看護師の時間を取り戻せるか

一木　プロジェクトCHANGEでは、「医工看共創が先導するレジリエント健康長寿社会」を目指している。看護現場では情報入力や書類作成などの「間接業務」が増え、本来、患者を観察し寄り添うべき看護師が、患者と接する時間を勤務時間内で十分に確保できないという課題がある。AIはその解決手段になり得るだろうか。

川原　DXが進んでも、データを人が入力していては効率化に限界がある。センサーやIoTによるバイタルデータの自動取得、さらにとっさの状況変化を認識して動く「フィジカルAI」が普及すれば、間接業務は大幅に減らせるだろう。

一木　導入コストが壁になるという声も多い。

川原　自動車の衝突被害軽減ブレーキも、安全を重視して普及が進み、量産によるコスト低減につながった。医療やケアも個々の施設だけの問題として考えるのではなく、社会全体で「安全」を実現する仕組みにしていくことが重要だ。

―AIは人に「安心」を与えられるか

一木　看護では「安全」と同時に「安心」も重要だ。患者を安心させる看護師の存在をAIが担えるのかは、多くの人が関心を持つところだろう。

川原　「安心」はAIにとって重要なテーマのひとつだ。先進技術は未知であるがゆえに疑念や怖れを抱かれやすい。AIを使う際のルールや責任を明確にし、利用者が納得して選べることが安心につながる。一方、AIに感情はないが、人がどのような言葉や行動にどう反応するかを学習し、それに応じた応答はできる。ストレスを感じることもないので、相手が理解するまで表現を変えながら何度でも説明できる。

一木　確かに、聞こえにくさや認知機能の低下がある患者とのコミュニケーションには、丁寧な説明と十分な時間が必要だ。AIが繰り返しの説明を支えれば、看護師にも余裕が生まれる。ただし、応答が適切かを確かめることは欠かせない。

川原　また、排泄介助など患者が羞恥を感じる場面では、AIやロボットによる支援が、患者と介助者双方の心理的な負担を軽減する可能性もある。

一木　プライバシーに配慮した見守りにも技術を生かせそうだ。在宅での見守りが必要な場合でも、浴室などにカメラを設置することには抵抗がある。

川原　見守りに必ずしもカメラ映像が必要なわけではない。Wi-Fiなど電波を利用して人の動きや状態を捉える技術もある。人間が「見る」のとは異なる方法で必要な情報だけを把握できれば、プライバシーを守りながら見守ることも可能になる。

一木　看護師をAIに置き換えるのではなく、それぞれの強みを生かすことが重要だと感じた。先進技術は、人が専門性を発揮すべき仕事に集中できる環境づくりに生かしたい。12月4日のシンポジウムでは「AI時代のケアイノベーション」をテーマに、この問題を市民とともに考えたい。

「人かAIか」ではなく「人とAI」へ

患者の立場で看護AIを考えると、やはり人間の看護師に寄り添ってほしいと思う一方、場面によってはAIの方が心地よいこともありそうだ。人手不足が進む中、ケアの質を維持するために、人とAIはそれぞれ何を担うべきなのか。12月4日のCHANGEシンポジウムでは、川原研究室の高木健助教もパネリストとして登壇し、「AI時代のケアイノベーション」を市民とともに考える。人にしかできないケアとは何か、AIだからこそできるケアとは何か。ぜひ会場で皆さまの声を聞かせてほしい。

～参加申し込みはこちら～

NHK連続テレビ小説「風、薫る」の原案「明治のナイチンゲール 大関和物語」の著者、田中ひかる氏を特別講師に迎え、第5回CHANGEシンポジウムを12月4日に開催する。明治の看護の原点を振り返るとともに、視点を近未来へ移し、「AI時代のケアイノベーション」をテーマとしたパネル討論も行う。詳細・参加申し込みはQRコードから。

日時：2026年12月4日　14時開演
場所：川崎市産業振興会館ホール

https://iconm.kawasaki-net.ne.jp/event_5th_symposium.html

企画＝(公財)川崎市産業振興財団ナノ医療イノベーションセンター